

コミュニティ・スクールだより



第39号

名張市教育委員会事務局発行

令和5(2023)年10月5日

コミュニティ・スクールの目的を共有して、より充実した取組へ！

【CSの目的とは…】



学校運営協議会(以下、学運協)を設置している学校のことをコミュニティ・スクール(以下、CS)といいます。そもそもCSの目的とは何でしょうか? 現在、学校や地域社会において、多くの課題があります。その多くは、それぞれ単独での解決が困難です。子どもたちや地域の輝く未来を創るためには、社会総掛かりでの対応、学校・家庭・地域による一体的な取組が必要です。その有効な仕組みの一つがCSです。市内全小中学校がCSとなっており、本年11月で丸3年となる今だからこそ、改めて経緯や目的を再確認することで、より充実した取組へつなげていきましょう。

【当事者意識を育んでいくためには?】



学運協の取組はCSにおける牽引役、いわば車のエンジンにあたります。そのエンジンを動かす原動力の一つとなるのが当事者意識です。当事者意識は燃料のように消費されるわけではありませんが、最初からあるわけではなく、育み高めていく必要があります。当事者意識を育み高めていく手立てには次のようなことが考えられます。

- ① 必要性や意図を共通理解する
CSや学運協、学運協委員の必要性や意図について、共通理解を図る。
- ② 目指す方向を共有する
学校教育目標や育てたい子どもの姿等を、学校と家庭、地域の三者が共有する。
- ③ 情報を共有する
学校が把握している子どもの教育に関わる情報について、成果だけでなく課題も含めて、三者が共有する。
- ④ 思いを語り合う
①から③を基に、三者が熟議等を通じて語り合う。
- ⑤ 具体的な行動計画を立てる
手立てや手法、期限や担当等、具体的な行動計画を、短期や中期、長期の目標と合わせて考え合う。
- ⑥ 明確な役割を持つ
三者が役割分担をしながら責任を持って取り組む。
- ⑦ 点検・評価の実施
P(計画) D(実行) C(点検) A(評価) サイクルを回して、常に点検・評価を行い、次につなげる。

【「段取り八分」の実践】



事前準備の大切さを表す言葉に、「段取り八分、仕事二分」があります。前もってしっかりと段取り(準備)をしておけば、目的の80%は達成したという意味です。学運協はまさしく「段取り八分」です。例えば年間の取組の方向性を協議する際にも、会長をはじめとした委員や地域の方、教職員に対して、必要に応じて事前に資料提供したり、説明や打合せを十分したりすることで、課題がより明確になり、共通理解が進むこととなります。また、会議当日を迎えるまでに、各委員が課題に対してしっかりと向き合うことができるようになります。これは、学運協に関わる人の当事者意識を高めることにもつながり、CSを充実させる基本となります。

【子どもたちの思いを学運協へ】



市内の複数の学校で、学運協の運営に子どもたちの思いを生かそうとする動きが見られます。錦生赤目小学校では、校区にある子どもたち自身が感じる課題について、児童が直接、学運協委員の皆さんに向けて伝える授業が実施されました。子どもたちは、授業に向けて、「錦生地区・赤目地区を盛り上げていくために、どんなことができるだろうか?」や「地域の皆さん(大人)に教えてほしいこと」をテーマに議論を重ね、当日を迎えました。課題や地域の方に取り組みしてほしいことだけではなく、自分たちにできることについても考え、伝えようとする場面も見られました。



また、赤目中学校では、生徒が学運協委員をはじめとする地域の方に対して、地域行事について提案する場が設けられました。地域で開かれる夏祭りに企画段階から参画し、実際の夏祭りにも主催者側として取り組むことにつながりました。

これらの取組に共通しているのは、子どもたちを「お客さん」として捉えていないことです。もちろん、提案の具体化には大人のサポートが必要になりますが、子どもたちが感じていること(課題や思い)を積極的に受け止め、学運協の運営に反映させています。

【小中一貫コミュニティ・スクール推進協議会が開催されます】



10月13日(金)に小中一貫コミュニティ・スクール推進協議会が開催されます。前半に山口県光市教育委員会の木本育夫さんから、CSや学運協の意図や意義について講演をいただく予定です。講演の様子については、今後、本だよりで紹介いたします。